

緒言

土屋弘行

Hiroyuki TSUCHIYA

金沢大学大学院
医薬保健学総合研究科
整形外科科学

整形外科医は、骨、筋肉、神経、脈管系などの身体運動に関わる様々な組織・器官を統合的にマネジメントする運動器のスペシャリストである。その整形外科医が取り組む運動器疾患の重要性については、近年の積極的なロコモティブシンドローム啓発活動などにより、広く認識されるようになってきている。

骨粗鬆症は、ロコモティブシンドロームを引き起こす主要因の1つであり、現在、骨粗鬆症の罹患者は全国民の10人に1人ともいわれているが、今後も進行するわが国の高齢者社会では、患者数がより増加することは予想に難しくない。近年の数多くの骨粗鬆症治療薬の登場により、多くの診療科医師が骨粗鬆症の治療にあたっているが、脆弱性骨折に対する予防、投薬、手術、リハビリなど多方面からの総合的なマネジメントを行えるのは、運動器スペシャリストの整形外科医をもって他にはなく、整形外科医が骨粗鬆症治療に積極的に取り組んでいくべきなのは論を俟たないであろう。

今回の特集では、骨粗鬆症領域で最先端の情報を発信しているエキスパートの整形外科医に執筆をお願いした。現在、日本骨粗鬆症学会の理事長を務める、近畿大学の宗圓聰先生には、骨粗鬆症の診断と治療について、最新のガイドラインに沿った解説をお願いした。骨質研究の第一人者である東京慈恵会医科大学の斎藤充先生には、骨マトリックスの最新の知見について、産業医科大学の酒井昭典先生には、各部位における脆弱性骨折の特徴と治療法、骨折前後における骨粗鬆症治療薬の関わりについて解説いただいた。また、脊椎外科も専門とする秋田大学の宮腰尚久先生には、骨粗鬆症に対する運動療法について、慢性腰背部痛あるいは脊椎後弯予防に対する効果まで含めて、運動療法のより総合的な効果について解説いただいた。脆弱性骨折予防について、金沢大学の山本憲男先生には、一次骨折予防のための新しい骨粗鬆症スクリーニング法と、服薬アドヒアランスを高めるための医薬連携システムについて解説をお願いした。また、新潟大学の今井教雄先生には、大腿骨近位部骨折の近況と、わが国におけるFragility Fracture Network活動や地域医療連携について、鳥取大学の萩野浩先生には、近年日本骨粗鬆症学会で精力的に取り組んでいる、骨粗鬆症マネージャー制度と骨粗鬆症リエゾンサービスについて解説いただいた。

読者の諸先生方には、本特集を通読いただくことで、骨粗鬆症の最新の動向を十分に感じ取っていただくことができると思う。本特集が、ときにその患者の骨にさえも直接触れることのできる運動器スペシャリストである整形外科医諸先生方の、今後の骨粗鬆症診療の一助となれば幸甚である。